

物流における環境配慮

モーダルシフトなどによる物流効率化を通じて、商品輸送にともなうCO₂排出量の削減に努めます。

国内物流におけるCO₂排出量削減

カシオでは「お客様、ユーザー様への物流サービスレベルを向上させるという使命のもと、環境に優しい物流を目指します。」を方針として、物流にともなう環境負荷の低減に努めています。

国内物流に関する具体的な目標としては、CO₂排出量（売上高原単位）の2007年までに対2000年比で50%削減を掲げています。

2004年度のCO₂排出量をルート別に見れば、従来から把握していた正式な配送ルート（流通センター→配送センター→得意先）では削減が進んでいるものの、これまで把握していなかった流通センター→得意先への直送ルートは増加しました。これらの結果、総量で前年比104%、売上高原単位で前年比93%となりました。

CO₂排出量の削減に向けた取り組み

カシオでは、物流にともなうCO₂排出量の削減目標を実現するために、以下

の3つの行動計画を推進しています。

- ① 国内物流センターの移転・統廃合により、物流コストを下げながら、総輸送距離を削減し、CO₂排出量を削減する。
- ② JRコンテナへのモーダルシフトを推進する。
- ③ 貸切輸送を、共同配送、路線便への切替等を促進する。

取り組み事例

国内物流センターの移転・統廃合システム品の配送

2005年7月には、ページプリンタ本体・トナーの生産地を日本から中国に移管するにともない、システム配送センターを甲府から横浜へと移転します。配送センターを港湾地域に近づけることで、港からのトラックによる輸送距離を削減するのが目的です。

コンシューマ品の配送

2005年には配送センターを港湾地区に移転するとともに、鈴鹿流通センターとの統合を推進することで、物流効率の向上を図ります。

東部配送センター：足立区→江東区（8月予定）
西部配送センター：大阪市西淀川区→大阪市港区（10月予定）

取り組み事例

モーダルシフトの推進

モーダルシフトとは、商品の輸送方法を、環境負荷の大きなトラック輸送から、鉄道貨物輸送に切り替えることです。モーダルシフトを推進したコンシューマ製品の流通センター→配送センター間で見ると、2004年度のCO₂排出量は、2003年度に比べて75トン・CO₂削減されています。内訳をみると、トラック配送が減少した反面JRコンテナ配送が増加しており、JRコンテナへの切り替えがCO₂削減に貢献していることがわかります。

モーダルシフトによるCO₂排出削減

■JRコンテナ ■トラック (単位:トン)

年度	JRコンテナ (トン)	トラック (トン)
2000年度	101	1,868
2003年度	74	1,250
2004年度	76	1,173

海外物流におけるCO₂排出削減

従来は国内物流でのみ目標を設定していましたが、2005年度から、新たに海外物流についての目標を設定しました。CO₂排出量を売上高原単位で、2007年までに対2004年度比5.0%削減するものとして、以下のテーマを中心に取り組んでいきます。

- マレーシア物流拠点統廃合
- プリンター梱包箱改善
- デジタルピアノ梱包箱改善
- PA物流拠点の中国移管
- 中国港使用推進
- シー・シー・ビーの配送拠点を港湾地区へ移設
- 米国東海岸（ニュージャージー）への輸送にALL WATER SERVICEを採用（鉄道→海上）
- 欧州向け輸送にSEA&AIRSERVICEを併用

2004年度地域・ルート別CO₂排出量 (単位:トン)

	船舶	空輸	鉄道	計
北米	9,504	35,218	1,303	46,025
欧州	8,854	29,849		38,703
日本	2,960	7,338	1	10,299
中国	132	521		653
ASEAN	79	0		79
計	21,530	72,926	1,303	95,759

※表組みの中で項目の合計が合わない場合がありますが、端数処理の関係です。

国内物流にともなうCO₂排出量／売上高原単位の推移

システム品: ■工場・港・空港→システム配送センター
コンシューマ品: ■工場・港・空港→鈴鹿流通センター
■鈴鹿流通センター→配送センター
■鈴鹿流通センター→得意先
■配送センター→得意先

年度	売上高原単位 (単位:トン-CO ₂ /億円)
2000年度	1.60
2003年度	1.10
2004年度	1.02

集計範囲を拡大しました
従来は「流通センター→配送センター」のルートしか把握していませんでしたが、2004年より集計範囲を拡大して、図に示したルートについても把握できるようになりました。

- ・従来からの集計範囲
- ・新たに追加された集計範囲
- ・現在把握できていない範囲

システム品の配送フロー

```

    graph LR
      A[国内工場] --> B[港/空港]
      B --> C[システム配送センター(甲府)]
      C --> D[得意先]
    
```

コンシューマ品の配送フロー

```

    graph LR
      A[国内工場] --> B[港/空港]
      B --> C[鈴鹿流通センター]
      C --> D[配送センター]
      D --> E[得意先]
    
```